

TruPhase の活用(21) —音源の位相確認(21)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(20)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

エラート WPCS-13795

J.S.Bach シャコンヌ他
ティボー・ガルシア (ギター)

UCJ UCCY-1098

J.S.Bach シャコンヌ他
荘村清志 (ギター)

NAXOS 8.554563

J.S.Bach Paltita E-major
アナ・ヴィドヴィッチ (ギター)

DENON COCO-73322

J.S.Bach シャコンヌ他
福田進一 (ギター)

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のボリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのボリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

ティボー・ガルシア盤は、位相反転させますと、定位がぼやけ、音像が過大になります。位相反転させないと、定位がしっかりして、音の焦点が定まって響きの良さが出てきます。

荘村清志盤は、位相反転させますと、定位がぼやけ、音像が過大になります。位相反転させないと、定位がしっかりして、音の焦点が定まって、豪快な弾き方が分かります。

アナ・ヴィドヴィッチ盤は、位相反転させますと、定位と音像がぼやけます。位相反転させないと、定位がしっかりして、音像が定まって女性奏者らしい優しい撥弦の様子がリアルです。

福田進一盤は、位相反転させますと、定位と音像がぼやけます。位相反転させないと、定位がしっかりして、音像が定まり、抑揚をつけた演出の様子が分かります。

4. まとめ

上記4盤とも正相であることが分かりました。いずれも演奏会で聴いており、4者4様の演奏の様子の記憶が蘇ります。

以上